

新山協ニュース

△ 発行者 平田大六 △ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428



第44回

はまなす国体の報告

国体委員長 高橋秀樹

去る9月21日、第44回北海道はまなす国体山岳競技が終

も喜んでおります。

道はまなす国体山岳競技が終りました。新潟県チームの総合成績は、成年男子17位、成年女子4位入賞でした。長年の悲願であった入賞をようやく果し、天皇杯皇后杯にそれぞれ25点の入賞点を入れる事ができました。ちなみにこの25点は今年の新潟県の国体順位を天皇杯で1位、皇后杯で2位、それぞれ押し上げた事になります。(今年の新潟県の成績。天皇杯27位、皇后杯33位)選手、関係者の努力はもとより、多くの人達からの力強い支援があったればこそです。本当にありがとうございます。

国体委員会は、県山協でも一番の金食い虫であり、毎年協会の貴重な会費やら、有志の皆様方からのカンパ金やらで多額のお金を使わせて戴いてきました。今年も、そんな事で少しもお返しのできたのではないかと思います。とて

「はい！」キビキビしたコールが響く。なかなか動きが良い。後からはヤンヤの声援で私は声を出す暇がない。ゴール手前5m、一瞬バランスが悪い。「落ちるな！」心の中で叫んだ瞬間、ブラーッとブラ下る。約10m滑落である。心臓が止りそうになる。「落ち着いて」始めて指示を出す。今度はうまく登りゴールに消える。「確保よし」大きなコールと共に後藤が登り出す。下部フェースの途中、コースエリアのテープを剥がしてしまい動揺している。「そのまま行け」2度目の指示を出す。クラックはすばらしい身のこなしである。後方より観声が上がる。ラスト5mがなかなか遅い。「早く！早く！」両手を握りしめ無言の声援を送る。そしてゴールのチャイムが鳴る。7分53秒。ヤッター。6位入賞が決った。選手が下降してくる。助川が泣き出

てきました。今年も、そんな事で少しもお返しのできたのではないかと思います。とて

後藤が不安そうにこちらを見る。「今迄あれほど練習したんだから大丈夫。自信を持って行け」と目で合図を送る。やがてチャイムが鳴り助川が元気にスタートする。下部の核心部フェースを慎重に登る。多くのチームが此を登れず失格となっている。中間部クラックに入る。「ビレイ！」



はまなす国体選手団

はまなす国体成績

種別		縦走	登攀	踏査	総合
成年	得点	69.40	91.50	66.28	
	順位	19	6	25	17
成年	得点	66.83	76.70	78.45	
	順位	4	6	5	4

す。「ゴメンナサイ、落ちて
ゴメンネ」「何言ってるの、
あんなにガンバッタじゃない」
皆、手を取り合って泣いてい
る。私は彼女達の肩をたたい
て何も言えない。胸が一杯に
なる。……
続く縦走、踏査もこんな調
子で3日間の競技を終わら
した。あふれる思い出を残した
はまなす国体。選手達には大
切な記念となった事でしょう。
そして多くの若者達にこの感
動を味わってもらいたいと願
い報告を終わります。

第44回北海道

「はまなす」国体に参加して

成年男子監督 草間雄一

大会は9月16日より21日ま
での日程で羊蹄山・ニセコ山
系において、地元7町村と住
民の方々・道岳連そして自衛
隊の人たち等の協力を得て、
縦走競技はえぞ富士とも呼ば
れる羊蹄山、登攀競技は日本
海を見下ろす雷電海岸の中腹、
踏査競技はスキー場や牧場が
点在しキタキツネが出てくる
ニセコのコースにおいて行な
われました。

新潟はB隊で競技1日目は
踏査。コースは高度差は少な
いが距離が長く、そして背を
越す根まがり竹の密集地で、
目標物が見えず視界が利くの
はスキー場だけと、自分の位
置確認の難しいコースであっ

大会までを振り返ってみま
すと、4月29日の県予選会に
始まり、6月から杉滝岩・石
川への現地トレーニング、そ
して日頃の自主トレーニング
をへて7月28日～30日の北信
越国体。

その北信越国体に於いて、
総合で1位になるも縦走では
4位。結果本大会においての
体力はまん中くらいと考へ、
体力の向上を計りながら、知
識と技術により一層の力がき
を掛けないと上位進出は難し
いと考へました。

そのような事をもとに、8
月にはいり2回のべ15日間の

北信越国体参加報告

三条東高校 真島智宣

7月30日、私達の夏が終わ
りました。思えば、ほとんど
ゼロからの出発で、見るもの
聞くもの皆初めてのことがば
かりました。他の皆さんの助け
をかり、迷惑をかけながらも
自分でもよくやってこれたな
と思えます。

4月29日の県予選でまさか
の優勝をしてしまった私達は、
もしかしたら、はまなす国体

成年女子との現地合宿、そし
て大会前の4日間のトレーニ
ングと、選手一同はできる限
り上位を目指し、又1枚でも
賞状を手にとりいう事で、精一
杯頑張りました。

そして今、成年男子は1枚
の賞状を登攀に於いて手にす
る事ができました。それは、
出場するに当たり、県山岳界
のみなさんの、熱い声援と御
支援をいただいた事、又たい
へんなご苦労を頂いた役員の方
々のおかげです。ここに厚
く感謝し心よりお礼申し上げ
ます。

たハードスケジュールで、練
習も思うようにいかないまま
本番を向かえることになっ
てしまいました。
私達は競技への不安もあつ
たので、事前にしておけるこ
とは、できるだけしておこう
と思ひ、7月25日に現地入り
しました。当初の予定では、
踏査会場や縦走会場を隅無く
回る予定でしたが、なか
なか思うようにいかず、しか
も、不慣れた土地で4人だけ
の行動だったので、とても心
細い思いをしました。

現地入りしてから、大会ま
では非常に長く感じましたが、
7月28日の開会式が始まって
からは、あっという間でした。
無我夢中で、今思ひ出しても
自分が何をしていたのかよく
覚えていない有様ですが、計
量で失敗したと、体力を
もっとつけなければならぬ
ということを感じました。
踏査競技では、事前にはほぼ完
全な地図ができていたので比
較的楽だったようですが、規
定時間内に帰って来た、石川
県、長野県チームなどに比べ
ると、体力面では大きな差が
あったように思ひます。縦走
競技でも同様に体力不足を痛

感じました。特区间は体力勝負だと聞いていたので、それなりのトレーニングを重ねたつもりだったので、やはり他県のレベルには追いつかなかったようでした。計量で他県はみな規定重量すれすれにしていまして、私達は、なんとなく不安を感じ、1/2kg位多めにしたのですが、これも大きく影響したのではないかと思います。いずれにせよ、国体で勝つためには、特別なトレーニングが必要だと思いました。

はまなす国体は、夢と消えてしまいました。総合で、長野県を破ったの2位と、満足のいく成績をおさめることができませんでした。なにもわからない私達をここまで引張って下さった県山協、成年チーム、少年男子チームの皆さんのおかげだと思います。どうもありがとうございます。

七賢を偲ぶ会追悼文③

森谷さんと最後の山

古川文男

病室の窓から白山、粟方岳、守門岳等が良く見えた。西に張り出した病室なので五頭連峰は見えない。

森谷さんはベットの上に座り「古さん、日本国が最後の山だったね」といわれた。昭和61年6月のこと、国鉄山岳連盟の最後の大会が鳥海山で、新鉄山岳連盟主管のもとに開催された。その時大会参与として、森谷さんも一緒に参加した。その帰途、列車の中から、お碗を伏せたよ

変りした。私の車は大須戸能の話、雷部落のシナ機、正月、小正月の行事など教えて頂くうちに、小俣小学校のプールサイドに着いた。小俣川沿いに登り、松峰、蛇逃峠へと辿る、蛇逃峠からは、山頂へ続く尾根の登りとなる。

「古さん、君の書いたのは、戊辰戦役古戦跡となっているけど、これは鷹待場となっているよ」といわれ道標を指された。「いやー、私もおかしいと思ってるんですよ。調べてみます」と私は答えた。その後、山北町に照会したところ、町史研究家等の指摘で変更したものと判った。

山頂でおそい昼食をすませ蔵王堂へと下り、部落を通りプールサイドへ戻る。「古さん、時間はどう、雷へ行けるかな」と聞かれる。陽はまだ高い。「ついでに温海町関川の金沢屋へ廻り摩耶山の話をしませようよ」と答えた。山頂で、新雪の頃、摩耶山へ登る約束が出来たからである。

夫妻ともに在宅しておられ、娘さんを加え話はずんだ。帰りは峠を戻り、単ヶ関へ出て7号線にのる。

「古さん、矢代田の付近に両墓制の所があるそうだが、車を出してくれる」といわれ「両墓制について説明された。いいですよ、毎日が日曜日ですから」と答え紫竹までお送りした。その後お忙しいと

遭難救助講習会案内 (模擬遭難救助自習訓練)

遭難対策委員長 山田 勲

◎ 今回の考え方 生体搬出の場合は会員の中

いつも皆様、ご苦労様です。季節柄、冬山の準備や、来年度の行事等の作成に追われて忙しい毎日かと思われます。さしてこの度の講習会のやり方ですが、各山岳会におかれまして、それぞれの普段の山行レベルに合わせて実行して下さい。秋山は日がい。どうしてもメンバーの集まらない場合や、無理と判断された場合は、各地区内の友好山岳会と協力するか、それでも難しい場合は地区の責任者と相談して下さい。

山行の種類	遭難者の状況	
(A)尾根登り中遭難	(1) 死亡	どういった方式で搬出するか？ 生体を使うか、模擬物体を使用するか？ 各山岳会で決めて下さい。
	(2) 負傷	
(B)岩登り中遭難	(1) 死亡	同上
	(2) 負傷	
(C)沢登り中遭難	(1) 死亡	同上
	(2) 負傷	

北信越5県会議案内

期日 平成元年12月9日(土)
 会場 妙高山荘
 日程 9日(土)
 受付 15時~15時30分

中頸城郡妙高々原町
 池の平温泉



(山岳会単位)

は有りません。各地区責任者は任意の場所に連絡本部を設置し、アマチュア無線にて逐一情報を得て下さい。各地区連絡本部は、弥彦山高頭翁寿像付近に設置する模擬遭難救助講習会本部と交信し、各山岳会の動向を報告して下さい。かなり省略した形ですが、一番大変な自力搬出下山までを、可能か不可能か？ それぞれ所属の山岳会みずからの現状を認識することは大事なことと思います。

期日 平成元年11月12日(前日)から出発しても可
 参加費 1000円

会議 15時30分~18時
 懇親会 19時~

10日(日)

朝食 朝食後記念写真撮影
 見学 希望者のみ予定
 議題予定

○第10回石川北信越国体報告

○第44回北海道国体報告

○第11回富山北信越国体案内

○第46回石川国体案内

「白根山岳会」

創立30周年になりました

白根山岳会会長 小柳 雅 弘

白根山岳会の誕生は、白根市が市制となった年と同じ昭和34年9月1日に発足致しました。今後も当会発展の為に頑張るつもりです。協会員各位のご支援お願いします。

講演会案内

その後も約30名程度の会員数を維持しながら、尾根歩きから、沢登り、冬山、岩登り等と一応オールラウンドな山行を行なってきました。白根山岳会では創立30周年を記念して、左記の通り記念講演会を開催することになりました。普通の方は体験でき

○その他
 会費 10000円
 当日受付にて徴収

申込 11月30日(木)までに、参加者氏名、役職名、住所、電話等を記入して、左記宛ハガキにてお願いします。

とき 11月19日(日)
 午後1時30分~4時
 ・記念式典 4時30分~
 ・祝賀パーティ 5時~7時30分

ところ サルナート5階
 万葉の間

北極点到達へのみちのり
 講師 伊藤周左エ門氏
 (土樽山荘経営。今年5月10日に女優の和泉雅子さんと同行し北極点にみごと到達された。)

○入場整理券として当日会場
 で5000円頂きます。
 祝賀パーティ会費
 1人 6000円
 (パーティ券があります)
 問い合わせ先
 小柳雅弘
 ☎025128013669